



北奥羽ワイド

高齢者の暮らし どう支援



八戸市の高齢者福祉施策や地域包括ケアについて学ぶ学生ら

八学大生が包括ケア研修

八戸

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために必要な支援について、地域住民と八戸学院大の学生が話し合う「地域での生活を考えるワークショップ」（八戸市主催）が、本年度も行われる。ワークショップを前に、参加を予定する学生対

象の「市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修」が6

月27、28日と7月1日、同大で行われ、本年度初めて参加する学生7人が3日間の研修を通して、高齢化が進む地域の現状や支援体制の構築について理解を深めた。ワークショップは市が進める生活支援体制

整備事業の一環で、地域のニーズと解決策を探るとともに、自助・互助体制を強化し、地域包括ケアの確立を目指す。2017年度から毎年実施。地域住民と学生がざくばらんに話し合うことで、課題とその解決策を浮かび上がらせる狙いで、これまでに高齢者のごみ捨て支援などに結び付いた事例もある。

研修会はワークショップを前に、学生に基礎知識を身に付けてもらう。本年度は、学生が地域の現状や地域包括ケアシステム、グループワークの基本的な技能などを学んだ。

初日の27日は、市高齢福祉課の職員が、高齢化が進む市の現状や市が取り組んでいる高齢者福祉施策について説明。学生は真剣な表情で講義を受け、今後の活動に向けて意識を高めていた。

（三浦千尋）